

Computer Report

Vol. 58 No. 6 6月号 (通巻 765号)

はじめの言葉

■ウンザリする発言／証言が、トドメを知らずに続いている。暴力絶対否定の今日にあっては、文字通り、いかなる暴力もあってはならないのだが、時代が時代であれば、一刀兩断の対象になっても仕方がないと思われるものばかりの連続だ。筆頭はずバリ、安倍政権を構成する閣僚および官僚の面々のもの。続いては日大アメフト前監督／コーチのもの。人間、嘘を付く時の表情／凶々しさの表れ方は共通しているようだ。

■試合で反則行為に及んだ学生選手の謝罪会見における発言内容／姿勢の潔さには、人をして一点の曇りも感じさせるものはなかった。人として、救われた感じも受けた。引き換え、指示をした前監督／前コーチの会見には、誠実さの欠片も感じさせるものがなかったばかりか、人としての悲しさ／絶望感を醸し出すものだった。非常に分かり易い対比現象だった。この間、国民をしてウンザリとさせているものの正体を知らしめてくれた。

■あくまでも国民をしてウンザリさせている本件は、日大アメフト事件ではない。安倍政権の関わるモリカケ問題こそが本件である。真実を伝えようとすることなく、言い逃れ／言い訳／誤魔化しを繰り返し積み重ねる姿勢／態度に国民／人は敏感に反応し、不快感を覚える。自然な反応である。この自然な不快感を抱き続けさせられてきて数年間。安倍政権／安倍夫妻／その友人はじめ取巻きたちの所業に精神的苦痛は高まっている。

■大学経営陣の一人としても絶対的権力を持った内田正人前日大アメフト部部長および井上奨前コーチに対して、アメフト関東学生連盟は、永久追放を意味する「除名」処分を決めた。同連盟はあくまでも任意団体だが、独自の調査によって、当該前監督／コーチの記者会見での言い訳／言い逃れの弁明全てを虚偽発言だと認定した。事件に直接関与し謝罪会見をした学生選手の言い分を真実の告発だと認定したのとは真逆な判断だった。

■安倍政権がモリカケ問題に関して安倍首相、麻生財務相はじめ関係省庁の官僚たちの言い訳／言い逃れに対しても、アメフト関東学生連盟のような断裁が下されることを切に願う次第である。無いといった交渉資料や決済資料、はたまた面会時でのやり取り記録などが相次いで出てきている。これらによって、安倍首相の醜い言い逃れ／言い訳発言の信憑性がますます怪しくなっている。疑惑は深まるばかり。ウンザリ度も増すばかり。

■本年4月に今治市に開学した加計学園系列の獣医大学設立交渉時において、加計学園関係者が安倍首相との面談に関する部分で虚偽発言をしていたとする自白発言が出た。これこそ真実だと思える部分を否定する自白だけに疑念はさらに深まった。ますます安倍発言を後追い／後付けする自白だと断裁したい。人間の持つ自然な洞察力をもってすると、そう裁断される状況証拠が、またひとつ固まったと言えそうだ。

■説得力が失われている一連の安倍首相発言を無理やり正当化しようとする闇の力が動いているようだ。日大アメフト問題にも、内田正人常任理事の絶対権力が闇の勢力として存在しているかのように映る。日本大学の経営に巣食う問題解決を目指す運動として1968年に学生が中心になって起こした「日大全共闘」運動を思い出す。安倍政権に対峙するには、それ以上の国民運動エネルギーが必要とされているように思える。(藤見)